

0032442-000

特 256-199

岐阜県勢要覧

岐阜県

昭和14年

昭和15

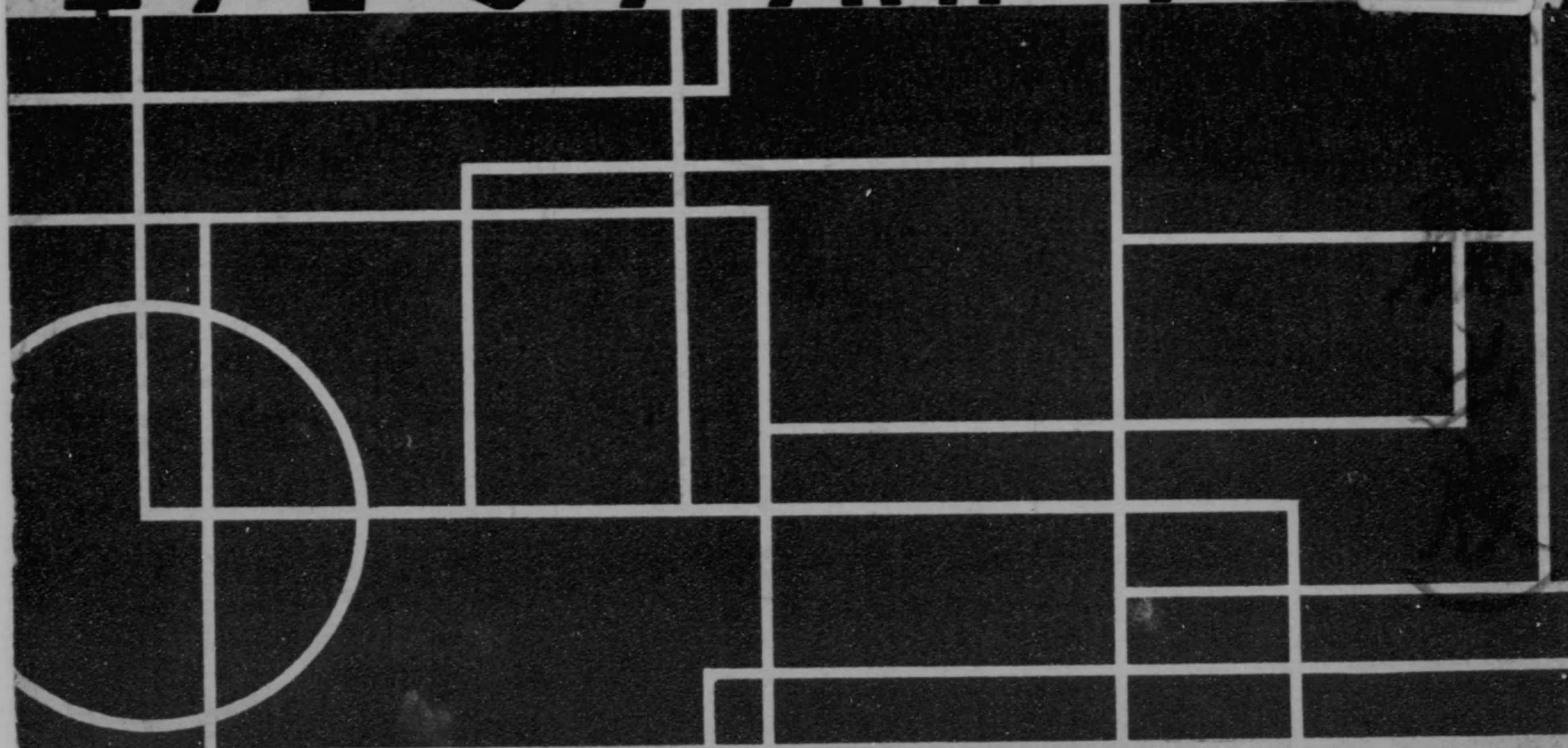
AFB

十四年

岐阜県勢要覧

特256

199



凡例

- 一、本要覽は各種事項に亘る統計事實より本縣縣勢の概要を觀察せんとする資に供せんがため努めて廣範圍に亘る事實を收攬編輯せり
- 一、掲載せる事實は主として準據調査法規に基き市町村長より提出せる資料に依るものなるも直接所管の關係官衙に付き資料を求めたるもの亦あり
- 一、各表中の事實は昭和十三年又は昭和十三年度の事實なり

特256
199

概説

地勢

本縣は本州の略中央にありて、東經百三十六度十七分より百三十七度三十九分に北緯三十五度十分より三十六度二十九分に及び、美濃及飛驒の二國を管す。東は長野、北は富山、西は石川・福井・滋賀、南は三重・愛知の諸縣に境し、面積一萬四百九十四・七方杆にして全國中第七位なり。美濃國は東北に廣く西南に狹し、地勢亦東北より西南に傾斜せり。故に諸川皆湊合會流して愛知・三重の間に注ぐ。東北部は山嶽重疊し、南は平原沃野多し。飛驒國は全國屈指の山岳地帯にして、峻嶺圍繞し、連山怒濤の如く、河水は激流奔飛して、舟楫の便に乏しく、諸川南北に分流せり。

沿革

上古國縣の制を定むるや、美濃前國、美濃後國及武藝國の三國と美濃縣の一縣を置かれしは舊記の傳ふるに於て、孝德天皇の大化新政に際し、新に統一して美濃國及飛驒國となし、清和天皇貞觀年中美濃國は十八郡、飛驒國は三郡となれり。降て豐太閤諸國の田地を検し、木曾川以北の尾張國の一部を割きて羽栗・中島・海西、三郡となし美濃に編入す。依つて美濃國二十一郡となれり。飛驒三郡は變る事なし。徳川家康關ヶ原の一戦に捷つや、大垣・加納・高須・郡上・岩村・苗木・高富・今尾・野村の諸藩を置き、笠松・高山に兩郡代を配置せり。王政維新に際し藩を廢して縣を置き、次いで明治四年諸縣を廢して岐阜縣となし、美濃國を管せしが、同九年飛驒國を併管し、以て今日に及べり。

氣候

美濃國は北に山を負ふを以て晴朗の天氣多く、氣候概ね温和なり。雨量は南部より北部に進むに隨ひて増加し、北西部の山岳地方は本邦有数の多雨地なり。飛驒國は山嶽重疊且高原地なるを以て氣温著しく低く、雨量寡少なり。冬季積雪多く、最深の地方は吉城及大野兩郡の山間部にして、一丈以上に及ぶことあり。

戶口

本縣の現住戶數二十四萬二千五百十三戶、人口百三十一萬三千百九十九人にし

概説

農業 戶口 生產額 農業

農		額 價 物 產 生		口			
耕 地 面 積	農 家 戶 數	現 住 一 人 當 當	現 住 一 戶 當 當	合 計	職 業 別	人 口 動 態	
						男	女
自 作 地	37,670	自 作	3,767	81,041	農 業	211,377	211,377
小 作 地	29,000	小 作	2,900	55,254	林 業	3,265	3,265
計 一 戶 當 當	56,670	計 一 戶 當 當	6,667	136,295	水 業	4,257	4,257
田	29,000	田	2,900	55,254	工 業	3,265	3,265
畑	50,000	畑	5,000	101,041	商 業	4,257	4,257
計	79,000	計	7,900	156,295	交 通 業	3,265	3,265
					公 務 業	4,257	4,257
					家 務 業	3,265	3,265
					其 他 業	4,257	4,257
					無 職 業	3,265	3,265
					合 計	211,377	211,377

戶		象 氣		地 租
郡 市 戶 數	男 女 計	方 地 山 高	方 地 早 岐	
		吉 城 計	211,377	最低 210.0
大 野 郡	97,023	最高 342.2	最高 55.6	山 野 地
益 田 郡	5,333	平均 99.9	平均 35.6	原 林 地
惠 那 郡	7,284	氣 溫	氣 溫	計
土 岐 郡	21,780	晴天	晴天	九,四四二
可 兒 郡	21,259	雨天	雨天	四,三五三
加 茂 郡	7,041	曇天	曇天	七,六〇八
郡 上 郡	1,573	雨 雪	雨 雪	一,七七三
武 儀 郡	1,010	雨 雪 天	雨 雪 天	五,六四一
山 縣 郡	5,568	晴天	晴天	九,四四二
本 巢 郡	9,010	晴天	晴天	四,三五三
安 八 郡	7,130	晴天	晴天	七,六〇八
不 破 郡	6,849	晴天	晴天	一,七七三
養 老 郡	5,032	晴天	晴天	五,六四一
海 津 郡	1,117	晴天	晴天	四,三五三
羽 島 郡	1,796	晴天	晴天	七,六〇八
稻 葉 郡	7,354	晴天	晴天	一,七七三
高 山 市	9,937	晴天	晴天	五,六四一
大 垣 市	27,550	晴天	晴天	九,四四二
岐 阜 市	66,443	晴天	晴天	四,三五三
計	211,377	晴天	晴天	七,六〇八

五

四

交				融				金				業			
電 信	電 話	橋 梁 數	道 路 延 長	貯 蓄 金	質 屋 貸 金	郵 便 爲 替	行 銀	行 銀	種 別	種 別	種 別	種 別	產 業 組 合	商 工 會 議 所	
															計
電信取振局 二二八	電話取振局 三三二	一六五	一四六一五〇	郵便貯金 四九,〇七,一六三	店 一六九	國內 一,一五七,一七五	普通銀行 三九,五〇三,三六九	普通銀行 三三	本 店	組合員 一,九三,五三七	總 資 本 金	總 資 本 金	信用販賣購買 三三七	所 員 數	
電信取振所 三三	電話取振所 三三二	三六四〇	二八七六〇三	產業組合貯金 一四三,八五〇,二九三	入 一三,七九,三三七	外國 七,二八七	勸業銀行 一六,九九九,六三九	支 店	內法人 一,八八五	佛 達 出 資 額	佛 達 資 本 金	佛 達 資 本 金	利用一市街地信用 三六九	議 事 件 數	
電信取振所 三三	電話取振所 三三二	三六四〇	二八七六〇三	計 一,九二九,五七,四六六	受 展 金	內 佛 一,三三二,二四一	貯蓄銀行 一六,一四九,九九六	總 資 本 金	諸 積 立 金	佛 達 資 本 金	佛 達 資 本 金	佛 達 資 本 金	利用一市街地信用 三六九	議 事 件 數	
電信取振所 三三	電話取振所 三三二	三六四〇	二八七六〇三	計 一,九二九,五七,四六六	流 入 金	外 佛 一,三三二,二四一	計 一,九二九,五七,四六六	佛 達 資 本 金	借 入 金	佛 達 資 本 金	佛 達 資 本 金	佛 達 資 本 金	利用一市街地信用 三六九	議 事 件 數	
電信取振所 三三	電話取振所 三三二	三六四〇	二八七六〇三	計 一,九二九,五七,四六六	同 貯 金 者	外 佛 一,三三二,二四一	計 一,九二九,五七,四六六	佛 達 資 本 金	借 入 金	佛 達 資 本 金	佛 達 資 本 金	佛 達 資 本 金	利用一市街地信用 三六九	議 事 件 數	

商		業										和																	
社 會	會 社	(各物產要主)										紙	和																
		工業用品	鉛石	大理石	瓦土	醬油	及竹	木製	足履	菓守	日雨			岐卓	清卓	洋磁	建築用	人造	絹絲	綿絲	毛								
合株	計	?	三	三	六	二	九	七	八	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
資式	計	?	三	三	六	二	九	七	八	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
名資	計	?	三	三	六	二	九	七	八	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
式	計	?	三	三	六	二	九	七	八	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
計	計	?	三	三	六	二	九	七	八	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十



谷汲山 華嚴寺



日本
ライン



瀧 老 養



國幣大社 南宮神社

松本千島油と社神水治



城 垣 大 寶 國

スブルア北本日



峽那惠



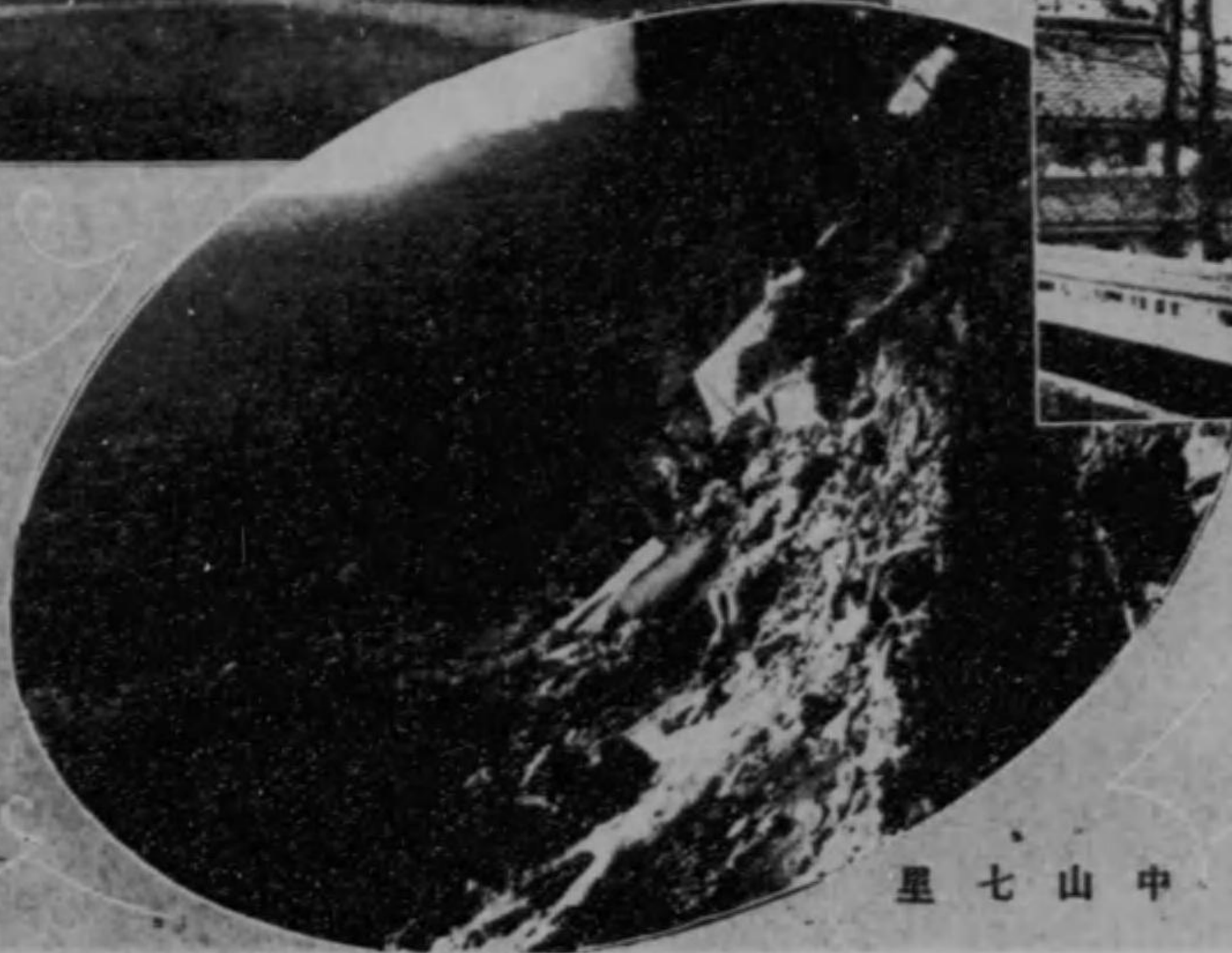
小倉公園



城 八



星七山中





國幣小社 水無神社



飛騨支所



飛騨國分寺



高山祭屋臺

岐阜縣廳

(市電泉町停留所)

本縣廳は明治四年始めて笠松に置かれしが同六年一月、現在の地岐阜市司町に移されたるものなり。現廳舎は大正十三年十月の竣工に係り鐵筋コンクリート造りにして本館は三階建總延坪二千三百四十七坪餘、別館は二階建、總延坪八百十坪なり。何れも近代式立體美の表現と實用的要件とを具備するものなり。

史蹟名勝

岐阜市

【國幣小社伊奈波神社】

(市電伊奈波通停留所)

岐阜の産土神にして、五十瓊敷入彦命を主神とし日葉酢媛命・淳野斗姬命・彦多都彦命の三柱を配祀す、創建年紀詳かならむ、社傳には景行天皇十四年なりと云ふ。縣社に列し、参拜者日夕絶えず。毎年四月四・五日は例祭にして世に之を岐阜祭と稱す。境内は老櫻古楓に富み、四季の眺め佳なり。

【岐阜公園】

(市電長良橋停留所より)

金華山麓にあり、往時城主居館の跡たる今の千疊敷を包擁せり。幾白年斧鉞を入れざる大自然境を併せて廣潤なる園域を有す。「板垣死すとも自由は死せず」伯の遭難の時儼語せるは此地なり。早春の梅花、緑樹、雪景四期の眺望絶佳にして歐人俳人の逍遙常に絶えず。

【岐阜城址】

(市電本町停留所より)

金華山頂に在り。山は標高三百三十米、北は断崖長良川に臨み、西及東面亦急坂絶壁多くして攀ぢ難し。南方は濃尾平野を俯瞰するの景勝を占む。建仁元年二階堂行政初めて要害を構へ、天文八年齋藤道三之を改築し後、織田氏の居城となりしが、今は模擬城を存するのみ。

【長良川の鵜飼】

(市電長良橋停留所より)

長良の清流と、金華の翠峰とは岐阜生命の源泉にして、昔芭蕉翁長良河畔の客となり此の山水をめで、十八樓記をものし、瀟湘の八景・西湖の十勝を兼ねと云へり。今や鵜飼の奇観は此の名勝と共に内外に喧傳せられ、観客來集するもの年々増加するに至れり

大垣市

【大垣城址】

(郭町 大垣驛より一町)

天文四年宮川吉左衛門安定の創築せしものにして、寛永十二年戸田左門の有に歸するや、更に改築修理せしが、今は城廓毀たれ塹濠埋れて、復た昔日の觀なし。されど天守閣のみは依然巍々として雲表に聳え、一たび之に登臨すれば濃尾の山河歴々指順の間に在り。

【大垣公園】

（麻町 大垣驛より一町）
舊城址を公園となせるものにして、天守閣は園の西北に聳え、園の附近は小丘をなし老松亭々常緑の色濃かに、櫻樹其の間に點綴して、閑雅なる四季の風光眞に掬すべし。

稲葉郡

【日子坐命御墓】

（岩村 美濃町電車日野停留所より）
開化天皇の皇子にして、當國に住はせ薨じ給ふ。御子八瓜日子命は美濃前國造になり給ひ、又御子丹波道主命は伊奈波神社の祭神となり給へり。

【琴塚古墳】

（北長森村 美濃町電車琴塚驛より）
前方後圓式の古墳にして、全長六十三間、後圓部に於ける横徑は三十八間なり。此の塚周圍に二重濠の形跡を留め又陪家も存じたりき。縣下に存する前方後圓古墳中最も完全なるもの、一にして代表的のものなり。

【各務原】

（高山線各務ヶ原驛より）
東西三里、南北一里の廣漠たる原野なり。其の一部は明治維新後第三師團の射撃演習地たりしが、現在飛行第一・第二聯隊を設置され、又第一飛行團・陸軍航空補給部支廠川崎飛行機製作場あり。今や本邦屈指の大飛行場なり。

羽島郡

【四季の里】

（名古屋鐵道 笠松停留所より）
蘇川の清流に臨める堤塘に倚りて築きたる風流瀟灑の庭園にして笠松名勝として世に知らる。四季共に眺望絶佳にして、庭中花卉・草木に富み、且所々に小亭の設けありて遊覽者の休憩にまかせたり。

【佐吉佛】

（竹ヶ鼻鐵道 竹ヶ鼻驛より）
竹ヶ鼻町故水田佐吉邸址に丈六佛の銅像を祀る。佐吉は勤力行至孝を以て郷黨の模範となり、常に陰徳を積みければ、時の人、佛佐吉と云へり。

海津郡

【油島千本松】

（大江村 參急電鐵多度驛より一里）
木曾・揖斐・長良三大川の湊合する所にして、寶曆三年幕府は薩藩主に之が治水工事を命ずるや、薩藩は國老平田親貞を遣奉行とし諸役人を派して事を視さしむ。此の役や美濃・尾張・伊勢の三國に渉り、東西四、五里・南北十四、五里に及び、區域極めて廣闊なるのみならず、會流地點に分水堤を築き、以て水勢を緩和せんとするものなるを以て其の困難想像の外なりしが、薩藩士は百折撓まず能く此の難工事を竣功せしめたり。されど工事の困難にして費用の豫算を超過するや、一死以て越權の責に任じ、從容屠腹せり。其の歿實に四十九名、世に薩學義士と稱し、治水神社に祀り、其の功績を不朽に傳へたり。

養老郡

【養老公園】

（參急電鐵養老驛より十町）
養老山下にあり。園内廣潤山側を占むるを以て、美濃平野を展望すべく、春は櫻・秋は紅葉・冬亦梅花あり、四時遊客を迎ふ。園内には有名なる養老の瀧あり。

【養老寺の國寶】

（參急電鐵養老驛より十町）
養老公園の内に眞宗養老寺あり。本尊十一面觀世音立像は藤原時代の優秀なる製作なり。徳川家康奉納にかゝる新藤五國光の利劍及無銘短刀と共に國寶に列せり。

不破郡

【國社大社南宮神社】

（東海道線垂井驛より八丁）
祭神は金山彦命、相殿には彦火火出見命・見野命を祀り、其の外攝末社二十餘座あり古來美濃一之宮とし武神にして朝野の尊崇厚く、四時共に參拜者絶ゆることなし。

【不破の關址】

（東海道線關ヶ原驛より十二町）
奈良朝に三關之一として重きを爲し、平安朝以降關屋の板庇を以て有名なる關址にして、北に伊吹の連山聳え、南は鈴鹿山脈の北端松尾山に及び、共に美濃平野と近江盆地とを遮り、本州東西の連絡を中斷する要關なり。

【關ヶ原古戰場】

（東海道線關ヶ原驛）
慶長五年秋の激戦地にして、東に南宮山横はり、近江境の連山と伊勢街道を挟む、北は相川山の山波笹尾山に至り、天満山と共に北國街道を挟み、西南には松尾山ありて中仙道を扼す。この間約一方里に四通八達の要衝にして、扼塞要害の地なり。今東西兩軍の各陣址には石標を建て、探訪者の便を圖れり。

【美濃國分寺址】

（東海道線垂井驛より二十町）
青墓村青野部落の中央北方現國分寺の南に當る水田の間にあり。聖武天皇天平十三年春勅に依り創建せられたるものにして、光孝天皇の仁和三年六月火災あり。梵宇佛殿一時に灰燼となる。今の國分寺は元和元年眞教阿闍梨の再興にかゝり、其の本尊藥師如來座像は元國分寺創建時代の本尊なりと云ふ。今國寶に列せり。

安八郡

【縣社日吉神社】

（參急電鐵神戶驛）
社傳によれば弘仁八年安八大夫安次、傳教大師に請ひて比叡山坂本の山王権現を勸請遷座し、大師自ら大宮・二之宮・宇佐宮・樹下宮の四柱の御身體を彫刻して奉安し、更に貞觀二年慈覺大師來錫の節八王子宮・客人宮・三宮の三柱の御神體を奉安す云ふ。

社寶十一面・千手觀音座像二軀、地藏菩薩座像一軀及び石狛犬は國寶に、境内の三重塔は特別保護建造物に指定せらる。

【墨俣城址】

(東海道線穗積驛より三十町)

墨俣町地内長良川沿岸にあり。織田信長、井口城を攻撃せんとし、永祿九年秋木下藤吉郎に命じて築かしむ。藤吉郎急に木曾川北方の渡しより築城材料を舟にてこゝに運び旬日に城塞を完成す。故に一夜城と云ふ。

揖斐郡

【谷汲山華嚴寺】

(谷汲電鐵 谷汲終點)

延暦十七年の草創にて天臺宗なり。醍醐天皇延喜年中勅額を賜ふ。花山法皇は觀音靈場を御巡拜あらせ給ひ、當寺に參詣したまふさいひ、爾來西國三十三箇所を巡拜する道俗、當山に詣で、巡禮の満願を表し、笈摺を奉納する慣例とす。佛體中毘沙門天立像は弘仁時代の作にして國寶に編入せらる。

【兩界山横藏寺】

(谷汲電鐵 谷汲終點より一里)

横藏寺神原に在りて、延暦二十二年傳教大師の創建、本朝天臺五岳の一なり。本尊の藥師如來・十二神將・四天王・深沙大王・大日如來・金剛力士・板影法華曼陀羅は共に國寶に編入せらる。

【霞間ヶ谷の櫻】

(參急電鐵 池野驛より十二町)

少數の彼岸櫻を除く外は純然たる山櫻のみにして、黄芽・赤芽・茶芽等色々の種類入り交り、又花にも一重八重あり。花の大小・色の濃淡等天然の變化に富み、甚だ美觀を呈せり。

本巢郡

【根尾谷斷層】

(根尾村)

明治二十四年濃尾大地震に際して現出したる地面の喰ひ違ひにして地震の原因たる斷層を明瞭に地表に現出せるは誠に稀有の現象たるを以て、是れが研究觀察を爲す者多し

【根尾薄墨櫻】

(根尾村)

從來學界に知られざる白彼岸の一品種にして、ムレヒガン(群彼岸)と稱せらる。高さ九丈・枝の擴がり東西十丈・南北九丈八尺・毎年四月十五日頃を以て盛りとす。此の時期は花の色稍薄墨を帯ぶる故に薄墨櫻の名ありと云ふ。内務省より指定保護を加へらる。

山縣郡

【法華寺】

(高富電車 三田洞驛より)

山縣郡岩野田村三田洞にあり。眞言宗にして本尊は聖觀世音菩薩なり。弘仁六年弘法

大師御自ら開き給ひし靈地なれば、古は七堂伽藍十六支院棟を並べて一大いに誇りしといふ。永祿以降兵燹にかゝり祖師堂及坊舎のみ殘存す。以來盛衰を経て弘仁二年現在の堂宇再建さる。奇岩老松あり櫻・紅葉の眺め又佳なり。

【岩井山延寶寺】

(嚴美村)

弘仁六年空海諸國を巡化し、此の地に來り伽藍を建立せしが、後兵燹に罹り衰頽せしを以て、寛永年中僧淳仁再興せり。本尊藥師如來は弘仁時代の作にして、國寶に編入せらる。

武儀郡

【大矢田の蘆谷】

(美濃町電車 美濃町終點より一里)

大矢田村の北方に高く聳ゆる山あり。天王山と云ふ。山腹に神祠あり、大矢田神社と云ふ。祭神は素鳴鳴命及天稚彥命なり。其の附近は所謂大矢田蘆谷と稱せらる、ものにして、楓樹枝を交へ、紅葉霜に飽く晩秋の風景頗る佳なり。

【小倉公園】

(美濃町電車 美濃町終點より十町)

小倉山は金森長近の一時築城せし小丘にて、長良川に臨み、形勝の地なり。春は櫻花夏は綠蔭風清うして鶴岡の奇觀を望むべく、秋は又月に紅葉によし。

【縣社洲原神社】

(越美南線 洲原驛より)

養老五年元正天皇の御造營に係り、祭神は伊邪那岐命・伊邪那美命・大穴牟遲命を合祀せり。康正二年祝融の災に罹り、寶物の多くを焼失せりと云ふ。境内老杉枝を交へて莊嚴なり。

郡上郡

【八幡城址】

(越美南線 八幡驛より二十町)

八幡城は一に霞ヶ城と稱し、永祿年中遠藤盛數の修築するところなり、遠藤氏より井上・金森氏を経て寶曆八年青山幸道城主となり、七代百十餘年の後、幸宜版籍を奉還しやがて城地を破却せり。今石疊を存じ、最近模擬城を建築せり。

【大山椒魚棲息地】

(越美南線 相生驛より二里)

和良村に在り。大山椒魚は世界中にも稀有の動物にして、現今地球上に生存するところは本邦と支那地方のみなり。其の體長は普通六十種内外にて、四肢を有し、尾は短くして鰭状をなせり。

【粥川鰻棲息地】

(越美南線 下川驛より十町)

粥川は長良川の支流にして、大小數多の鰻棲息し、他の河川に於ては到底見る事能はざる所なり。古來村民は鰻を保護する事厚く、之を捕ふる者神罰を受くとなす。是れ粥川の鰻の繁殖する所以なり。

【縣社白山神社】

北濃村長瀧にあり。社傳に養老年中長瀧寺開祖奉澄の勸請にて、中宮白山と稱し、加賀の本宮白山に對せるものなりと云ふ。平安朝以來長瀧寺と兩部習合せり。明治維新後社寺分離し、同六年郷社となり、尋で縣社に列せり。多數の古文書・寶物を藏せり。

(越美南線 北濃驛より)

加 茂 郡

【木曾川の勝景】

木曾川は信濃の深谷を流れて本縣内に入り、惠那峽の勝をなし、更に西流して、土岐可兒兩郡と加茂郡の境を畫する峽流となり、至るところ兩岸の風光賞すべし。殊に太田町より鶴沼村地先に至る迄約三里の急灘は俗に日本ラインと稱し、奇巖河中に聳立して風景絶佳なり。

(高山線太田・坂祝・鶴沼各驛)

可 兒 郡

【大寺山願興寺】

御嵩町に在り、天台宗に屬す。寺傳に弘仁六年傳教大師草創すと云ふ。一條天皇の正曆年中行智尼、に菴居し、本尊藥師を禮拜しけるが、長徳二年奇瑞あり。依つて七堂伽藍を造立し寺名を附す。後屢々災に罹り、現在の堂宇は大久保石見守等の修理せしものなり。東濃第一の古刹にして、佛像二十四軀は國寶に列せり。

(東美電鐵御嵩終點より)

土 岐 郡

【虎溪山永保寺】

正和二年夢窓國師法弟元翁と菴居修道せるに起る。境は土岐川の斷崖に臨み、風景絶佳、支那廬山の虎溪に似たるを以て名づく。開山堂は文和元年の創建にて、夢窓國師・佛德禪師元翁、像を安置す。觀音堂は水月場と號し、正和三年の創建共に、特別保護建造物なり。

(中央線 多治見驛より十町)

【鶴ヶ城址】

土岐町字中町の丘上に在り。東西の出丸細く、左右に鶴翼を張りたる様なれば、鶴ヶ城の名を得たり。是れ土岐氏最初の居城にして勤王の士土岐頼兼、より出たりと云ふ。

(中央線 瑞浪驛より十町)

【ひとつばた(自生地)】

釜戸村字森前神明社の雜木密林中に自生し、其の數九本あり。内最も高きは十間餘根元の周圍七尺二寸あるものなり。當樹の自生は本縣にては惠那・土岐兩郡のみに限り本州には愛知縣の二箇所の外絶えてなく稀有なる種類に屬す。内務省より指定保護せらる。

(中央線 釜戸驛より十町)

惠 那 郡

【一條宰相信能墓】

岩村町に在り、信能承久の亂に後鳥羽院御所に候し、北條氏追討の議に參す。東兵來り京都に迫るや、一軍の將として宇治川芋洗の渡を守る。後擒へられ、遠山莊(岩村)に於て首を刎れらる。時人小祠を建て、相原若宮八幡と云ふ。今の岩村神社是なり。

(明知線 岩村驛)

【惠 那 峽】

木曾川、惠那の山谷を流る、や、水勢急奔、迂餘曲折して谿いよく深く、景益々奇なり。今や大同電力の堰堤川流を横斷し積水爲に上流中津に至り、一碧三里、映湖鏡の如し。絶壁諸所流を壓して峙ち、神斧截然空際を斷するあり。怪巖重疊、或は天柱を立て、地軸を貫き、或は磊々一石よく千鈞を支ふるあり。物象多趣、一々名狀すべからず。眞に天工技を競ふに似たり。

(中央線 大井驛・中津川驛)

益 田 郡

【中山七里】

金山橋を渡りて益田郡に入れば、道は益田川の峽流に沿ふ。此の邊中山七里と稱し、山水の美を以て聞ゆ。殊に秋季紅葉の時を以て最とす。

(高山線 金山・燒石・下呂各驛)

【下呂温泉】

村上天皇の時代天曆年間開泉にして華氏百二十度温度を保持し硫黄鐵礦、鹽分を含有し胃腸病・リウマチス・神經痛に特效ありて近時高山線開通と共に遊覽者日々に増加せり。

【縣社久津八幡神社】

社傳によれば本社は平治の亂に京都を敗走して入國せし源義平の勸請にかゝる云ふ。後應永十九年櫻谷城主白井太郎社殿を造營す。拜殿は特別保護建造物に指定せらる。

(高山線 萩原驛より五町)

高 山 市

【高山陣屋址】

今の飛騨支廳舎なり。往昔飛騨國主金森氏が下屋敷とせし所にして當時は二千八百四十餘坪ありしと謂ふ。元禄五年徳川幕府之を沒收して飛騨代官の治所に當て高山陣屋と稱す。伊奈半十郎忠篤初代の代官として來任し、慶應四年迄百七十七年間の陣屋たり。明治元年廢藩置縣と共に高山縣廳舎となり、同十二年大野・益田・吉城郡役所となり、同三十年郡制施行によりて大野郡役所となりしが、大正十五年六月郡役所廢止に依り飛騨支廳舎となれり。現在の建物は文化十三年に改築せられ其後數度の變遷に依り、敷地建物等大いに縮少せられしと雖も、支門・支圖・奥庭竝に郷倉の大部分は猶舊態を存せり。昭和四年文部省より史蹟に指定せらる。

(高山線 高山驛より)

【飛騨國分寺】

(高山線 高山驛より五町)

本堂は足利時代の古建築にして、特別保護建造物に指定せらる。本尊の薬師如来座像
親世音菩薩立像共に藤原時代中期の作と云ひ國寶に列す。三重の塔は元和九年の建立に
して、國內唯一のものにて、寺觀の美を添へたり。

大野郡

【國幣小社水無神社】

(高山線 宮驛より十五町)

當國一之宮なり。祭神は斐陀國造の祖天火明命なりと云ふ。貞觀九年從五位下より從
五位上を加へ、累進して元慶五年從四位上を加ふ。明徳中國司領主議して社殿を營み、
應永元年成る。殿宇壯麗、老杉・古檜森然之を擁じ風致佳邃なり。

【中部山岳國立公園】

(高山線 下呂・小坂・久々野・高山・猪谷各驛)

飛騨・信濃・越中三國の境上に連亘する峻嶺は前穂高・奥穂高・北穂高・鎗・双六・
蓮華・中之俣を始めとし其の東上高地・梓川の深谷を距て、蝶・常念・大天井等を控へ
更に西に支出して抜戸・笠・錫杖等あり。是れ皆飛騨山脈中の雄峯にして、之に硫黄・
乗鞍・御嶽等の火山脈を加へ、更に北進して白馬を起し、遠く日本海に没す。本邦中最
も複雑高峻なる壯年期の地貌を呈し、轟々天を摩して連亘する壯觀は實に邦内第一なり
今より五十年前チエンパーレン氏は等の高峰に名づくるに日本アルプスの名を以てす。
是より邦人の間に喧傳せられ、近時登山熱の流行につれ、登山者激増しつゝあり。

吉城郡

【大平山安國寺】

(高山線 國府驛)

足利氏北朝光明天皇に請ひ勅願寺に擬して建てたるものにして、正平二年に成就し、
寶徳元年には十刹に列せり。應永十五年に建てられたる輪藏あり。邦内現存中最古のも
の、足利時代に於ける優秀なる標本的建築にして、特別保護建造物なり。

【双六谷の材木岩】

(上寶村)

乗鞍火山脈地帯に屬する石英安山岩の柱狀節理が山側巨巖に現はれ、其の狀恰も材木
を積み重ねたるが如く、幅十間・高さ五六間の間約三百個の石柱を數へ、一偉觀を呈
せり。

229

昭和十五年九月五日印刷
昭和十五年九月十日發行

岐阜縣

岐阜市玉穂町一番地ノ一
印刷者 藤澤要助

岐阜市玉穂町一番地ノ一
印刷所 明文社印刷所

